

【件名】	路面補修工事(4-の6)及び五色橋(上り・下り)維持工事(橋面舗装)	【事務所名】	第一建設事務所	
【工事場所】	東京都港区海岸三丁目地内から同区港南三丁目地内まで外1箇所	【受注者名】	株式会社佐藤渡辺	
【工期】	令和5年2月20日から令和6年1月26日まで	【主たる技術者名】	現場代理人・監理技術者 西村 信武	

【工事概要】

・路面補修 車道舗装 (低騒音舗装)	5,565㎡
車道舗装 (密粒度改質Ⅱ型)	1,956㎡
薄層カラー舗装 (RPN-601)	38㎡
薄層カラー舗装 (RPN-301)	388㎡
歩道舗装工 (インターロッキングブロック・一般部)	1,736㎡
歩道舗装工 (インターロッキングブロック・乗入部)	456㎡
・橋面舗装 車道舗装工 (改質Ⅲ型-W)厚3cm	1770㎡
薄層カラー舗装工 (RPN-303)	214㎡

【表彰理由】(※発注者側評価)

本工事は、路面補修および橋面舗装の工事である。

工事区間には、首都高の出入口があり、規制により作業日時に制限が生じたが、事前の綿密な調整により工期に支障を及ぼさなかった。

施工では、ダンブアップセンサーによる上空の首都高構造物への接触防止や、旋回範囲を路面に表示するバックホウ、自動緊急ブレーキ装置付き転圧機械による事故防止に取り組み、無事故で工事を終えた。

また、HTTゼロエミッションアドバンス工事として取り組み、低炭素化や省電力化に努めた。



施工前



施工後

【受注者の声】

◇ 苦労した点

首都高との調整の結果、特に出入口の規制について、施工可能日が週1日かつ曜日指定となり、規制時間のAM4:30までの施工完了及び遅滞ない交通開放が指定され、工程や施工区割り等を綿密に精査する必要が生じる等、その対応に苦労した。

◇ 特に工夫した点

上空の首都高構造物との接触の懸念から、廃材運搬ダンプを当初大型(10t)から中型(8t)に変更し、かつダンブアップセンサー(荷台角度警報装置)を使用することで荷台を上げる際の事故防止を図った。

◇ 現場で得られたやりがいや達成感

首都高との工程調整など様々な制約がある中での施工であったが、綿密な工程管理と日々の現場状況に合わせた変更を適宜行ったことで、当初工期内でしゅん功できた。

◇ 建設業の将来を担う若手技術者や学生に対し伝えたいこと

現場仕事は全て一点物で、また、施工条件もいつも異なり正解はない。最適解なのかを迷いながらも、自分の裁量で決めることができる面白い仕事であることを伝えたい。



ダンブアップセンサー(荷台角度警報装置)の使用状況